

平成 26 年 10 月 日

仙台市長 奥山 恵美子 様

仙台市環境影響評価審査会

会長 持田 灯

仙台医療センター建替等整備計画環境影響評価準備書について（答申）

平成 26 年 6 月 25 日付 H26 環環都第 452 号で諮問のありました「仙台医療センター建替等整備計画環境影響評価準備書について（諮問第 46 号）」に関し、環境の保全及び創造の見地からの意見は下記のとおりです。

記

1 全体事項

- (1) 国立病院としてふさわしい断熱性能を有する建築物とするため、目標とする PAL（年間熱負荷係数）低減率及び採用する窓サッシの断熱性能の見直しを求めるべきである。

2 個別事項

(騒音)

- (1) 施設の稼働（ヘリポート）に伴う騒音の予測において、一部の地点で環境基準を超過し、また、最大騒音レベル（ L_{Amax} ）は非常に高いことから、これらの結果を重く受け止め、さらなる環境保全措置を検討するとともに、音圧レベルが高いと予測されている低周波音の影響と合わせて、評価を見直すよう求めるべきである。

また、近隣の住民等に対して情報を分かり易く確実に伝え、可能な限り事業に対する理解を得るよう求めるべきである。

- (2) 施設の稼働（ヘリポート）に伴う時間帯補正等価騒音レベル（ L_{den} ）の予測について、ヘリコプターのホバリング時は対象とせず、飛行時のみを対象としたことをその理由と合わせて予測方法に明記するよう求めるべきである。

(低周波音)

- (3) 施設の稼働（ヘリポート）に伴う低周波音の影響を評価する基準・目標として、「低周波音問題対応の手引書」（平成 16 年 6 月 環境省）に示される低周波音苦情を的確に対処するための参照値を用いているが、同手引書は移動音源には適用しないこと、また、環境影響評価の目標値として策定されたものではないことを踏まえ、上記の参照値を用いた理由を明記するとともに、手引書の改定等があった際には、改めて評価の見直しを行うよう求めるべきである。

(水質)

- (4) 供用後の排水設備計画において、厨房排水の処理方法を具体的に記載するとともに、その他の排水も含め、汚泥等の固形廃棄物の処理が生じる場合には、処理方法等を記載するよう求めるべきである。

(水循環)

- (5) 近年のゲリラ豪雨等による冠水被害の発生を考慮し、雨水流出抑制施設の設置を具体的に検討するとともに、雨水流出抑制施設設置時の雨水平均流出係数を予測し、治水・防災上の観点から、その値が妥当であることを説明するよう求めるべきである。

(風害)

- (6) 環境影響評価準備書に示された予測に係る基礎方程式について、正確な記載を求めるべきである。

(植物)

- (7) 新しく植栽する樹種を選定するにあたり、蝶を誘引するための一定の配慮が見られるが、より効果的に蝶を誘引するため、蝶の生息環境並びに食樹と吸蜜樹の組み合わせを考慮して、植栽計画を検討するよう求めるべきである。

(動物)

- (8) 文献資料において計画地の周辺地域での分布情報があるヨタカについて、計画地が渡りの中継地であるとしているが、環境影響評価準備書に示された調査結果からは、そのことを断定することは難しいことから、予測内容を見直すとともに、本種の渡りの中継地として、周辺の緑地や林を想定するのみならず、計画地の植栽計画を踏まえた予測内容とするよう求めるべきである。

- (9) 現病院でバードストライクの事例が確認されていないことを根拠として、その恐れは小さいと予測しているが、建物の高さが変わること等を考慮し、より慎重な予測を行うとともに、バードストライクに対するさらなる配慮を検討するよう求めるべきである。